

水田たより 6月号

令和6年6月3日

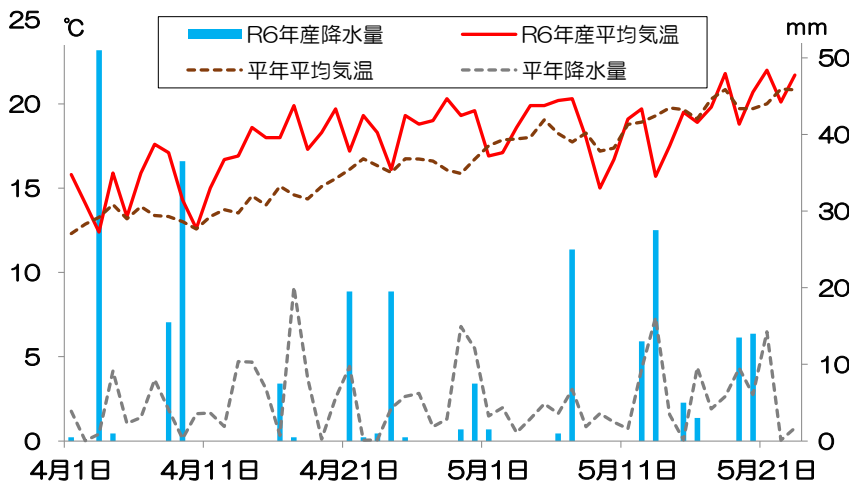
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

水稲

気象状況

4月の気温が高めに推移しており、4月上中旬植えの水稲では昨年より分けつの発生が早い傾向にあります。茎数を確認し、分けつが過剰にならないよう中干しを開始しましょう。



R6/4/1~5/23の概況

◇積算気温

952.5℃(平成 876.4℃)

◇積算降水量

266.0 mm(平成 277.9mm)

◇積算日照時間

329 時間(平成 373 時間)

水稲

斑点米カメムシ類対策

～注意！イネカメムシの発生が増加しています～

イネカメムシの吸汁により、登熟初期には「不稔」が、登熟中後期には「斑点米」が発生します。昨年までの発生状況等を踏まえ、優占しているカメムシの種類に合わせた適期防除によって被害を抑えましょう。



左:イネカメムシ 右:ホソハリカメムシ

(1) 薬剤防除

イネカメムシが優占しているほ場では

1 回目は出穂期（不稔の発生を抑制）、2 回目は 1 回目散布の 2 週間後（斑点米の発生を抑制）

イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類が優占しているほ場では

1 回目は穂揃い期、2 回目は 1 回目散布の 7～10 日後

薬剤感受性の低下を防ぐために
1 回目と 2 回目は R A C コード
の異なる薬剤を選びましょう。

(2) 畦畔雑草の管理

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の発生源となる恐れがあるため出穂 10 日前までに除草を終えましょう。

水稲

いもち病対策

～抵抗性品種でも要注意～

いもち病菌は稲わらで越冬するため、昨年発生があったほ場では特に注意が必要です。近年、いもち病抵抗性品種でも発病が確認されています。

いもち病は弱い雨の継続や、通気性の悪さや密植によって湿潤状態が続くと感染しやすくなります。発生源となる置き苗は速やかに除去し、発生予測システム（BLASTAM）を参考に防除計画を立て予防的防除を行いましょう。



BLASTAM



葉いもち

大豆

新品種「サチユタカ A1号」

桑名管内では作期分散を目的に令和2年度から早播き適性のある大豆品種の実証を行ってきました。この度、実証結果が優良であった「サチユタカ A1号」が県の奨励品種として採用されましたので、本内容を確認のうえ、導入をご検討ください。

「サチユタカ A1号」の特徴（7月中旬播種の「フクユタカ」の生育について記載）

- ① 6月中下旬播種の場合、開花期が8月上旬（8月下旬）、成熟期は11月上旬（11月下旬）となる傾向があります。
- ② 主茎長はかなり短く、倒伏しにくい姿です。
しかし、最下着莢位置が低いため、刈り取りには注意が必要です。
- ③ 百粒重は大きい傾向があります。
- ④ 莢がはじけにくい特性があり、収穫時のロスが減ります。

蔓化や倒伏の心配が少なく、

麦収穫後、早期播種が

できます。さらに、中耕や防除の作業を適期に行うことで、収量向上を図ることができます。



サチユタカA1号



フクユタカ

大豆

は種に向けたほ場準備

麦収穫後すみやかにほ場準備をし、は種に備えましょう。早期に播種した場合、「フクユタカ」は蔓化（つるぼけ）する可能性があるため、摘芯などの対策をしましょう。連作ほ場では、pHの低下を防ぐために、土壌改良資材を施用してpHを6.0～6.5に調整しましょう。

ほ場準備としては播種前の排水対策を徹底することで降雨による苗立不良や生育不良を防ぐことが重要です。また、は種後の病害虫を防ぐために種子消毒を行い、苗立ちを確保しましょう。

◇排水対策のポイント

- ・ 明渠と排水口を連結させる
- ・ 明渠に埋まっている土や繁茂している雑草を取り除く
- ・ ほ場を均平にする

※麦刈り取り後は、明渠が崩れており、排水がスムーズに行われない可能性があるため、必ず確認しましょう。

◇土壌改良資材の例

- ・ 苦土石灰：やや遅効性、施用後すぐに作付け可能
- ・ 消石灰：即効性、施用後7日程度期間を空けて作付けを行う



明渠と排水口が連結されているほ場

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索